

科目番号	科目名	開講年次	学期	授業形態	単位	担当教員
	法学 / 日本国憲法	1	夏	講義	2	吉良 貴之
<b>授業概要</b> 日本国憲法を中心に、身近な法律問題を素材にして、法学の基本的な考え方を理解する。						
<b>到達目標（学習の成果）</b> 法律科目の基本的な勉強法を身につけるとともに、時事問題や各自の問題関心について、法的な考え方から述べられるようになること。						
<b>授業計画</b>						
回	表 題	学修内容				
1回	イントロダクション	講義の進め方、到達目標、評価基準などについて説明する。				
2回	学校と法 (1)	いじめや学外での私生活の問題など、学校生活で生じる問題を取り上げ、どのような法律問題・人権問題があるかを理解する。(1章)				
3回	学校と法 (2)	学校生活のなかで生じる「著作権」の問題について、とくに「音楽」を素材にしながらか理解を深める。(1章)				
4回	契約と法	不動産契約を素材にして、「契約」とはどのようなものか、基本的な考え方を理解する。(2章)				
5回	不法行為	身近に起こりうる「不法行為」を題材にして、民事と刑事の考え方の基本的な違いを理解する。(3章)				
6回	裁判員裁判と刑事法	「裁判員」に選ばれた場合を想定しながら、「刑事裁判」の基本的な考え方を理解する。(5章)				
7回	家族と法 (1)	「婚姻(結婚)」にかかわる法的な問題を取り上げ、家族をつくることは「法的には」どういうことかを理解する。(4章)				
8回	家族と法 (2)	「子ども」にかかわる家族法や社会保障、人権の問題を、具体的な事例を通じて理解する。(6章)				
9回	女性と人権	「女性」にかかわる法律問題のうち、男女雇用機会均等法など、主に労働の場面であらわれる問題について理解する。				
10回	日本国憲法の仕組み	日本国憲法の構造、立憲主義の基本的な考え方、歴史的な経緯などを理解する。				
11回	精神的自由	基本的人権のうち、精神的自由にかかわるものを取り上げ、基本的な考え方を理解する。				
12回	経済的自由	経済活動にかかわる自由を取り上げ、精神的自由との比較のうえで理解する。				
13回	社会権	生存権や労働権などを中心に、社会権の基本的な考え方を身につけるとともに、身近な事例にあてはめて考えられるようになる。				
14回	統治機構	立法・行政・司法のそれぞれの役割について理解する。				
15回	まとめと復習	これまでの学習内容をまとめ、講義全体を通して一貫した考え方を身につけるようにする。				
<b>準備学修</b> 前半(8回)までは教科書に準じて講義を進めるので、該当部分をよく予習すること。後半は予習用の教材を指定する。法律や判例についての知識は前提としないが、さまざまな時事問題を事例にして講義を進めるので、毎日のニュースにこまめに目を通してほしい。						
<b>成績評価の方法・基準</b> 毎回、講義の終わりに10分程度の時間をとって小テストを行う(講義で扱った基本的な知識を問うもの。出席点を兼ね、最大50%)。学期末には試験またはレポートを実施し、自分なりの問題関心に応じて、法的なものの考え方を使いこなせるかどうかを問う(最大50%)。						

**教科書**

大村敦志監修、東大大村ゼミ著『ロースクール生と学ぶ 法ってどんなもの?』(岩波書店[岩波ジュニア新書]、2009年、840円+税)

**参考書等**

後藤光男『図解雑学 憲法』(ナツメ社、2004年、1470円)

憲法については、各自でわかりやすそうと思ったものを選んでもらってかまわない。

**履修上の注意・学修支援**

疑問点がある場合は、授業中や終了後など、いつでも気軽に質問・相談してください。メールでの質問も受け付けます。また、教員ホームページ(<http://jj57010.web.fc2.com>)に授業資料をUPするので、学習に役立ててください。